

ICTで 授業 をDX!

学年 小学校6年 教科 国語 など

グループでの文章作成を協働的に!

使用するアプリケーション等

- ・ Google Classroom
- ・ Googleドキュメント

単元・題材 私たちにできること

本時の目標 「書くこと」において、目的や意図に応じて事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思考力、判断力、表現力等)

ICTを活用することで できること

- ・ 共同編集を許可することで、グループ全員で一つのファイルをそれぞれの端末からリアルタイムで編集することができる。そのため、グループで一つの作品を作るような学習活動のときに効率のかつ協働的に取り組むことができる。
- ・ 文章を書くことが苦手な児童でも、書くことをグループの友達と相談しながら進めることができる。加えて、打ち込んだことがリアルタイムで共有されるため、グループでの推敲にも取り組みやすい。
- ・ ICTを活用して文章を書くこと加除修正が行いやすいため、本時のめあてである「書き表し方を工夫する」ことの様々な表現を簡単に試すことができる。

DX前 (ICTを使っていなかった頃は・・・)

1 導入

- ① 前時に考えた文章の構成を見直すとともに、本時ではグループで役割分担をして、自分の担当する段落をそれぞれが書き進めることを知る。

2 展開

めあて 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して、提案文を書こう。

- ① 自分の考えが伝わるとはどういうことか考える。
 - 提案文であることを押さえ、自分たちの提案が相手に納得してもらえようようにする必要があることを確認する。
- ② 書き表し方の工夫について、学習したことを復習する。
 - 具体的に書く。内容のまとまりごとに段落を分けたり、見出しを付けたりする。
 - 箇条書きにする。事実と感想、意見とを区別して、文章を書く。
- ③ 提案文の中で自分の担当する部分の下書きを書く。
 - 書き表し方の工夫を考えながら、個人で書き進める。
- ④ 書いた下書きをグループで持ち寄って読み合い、アドバイスをし合う。
 - 「分かりやすい」「説得力がある」ことを視点にして文章を読み合い、書き表し方で工夫できるところを伝え合う。

3 まとめ

- ① めあてに沿って、振り返りを書く。
 - 自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫して提案文を書くことができたか振り返る。
- ② 次時の活動の見通しをもつ。

DX!

DX後 (赤字はICT活用場面)

1 導入

- ① 前時に考えた文章の構成を見直すとともに、本時では端末を使って、共同編集をしながら提案文を書くことを知る。
 - 前時までに作成した構成メモはワークシートに書き込む。そうすることで、ワークシートを見ながらGoogleドキュメントに打ち込むことができる。

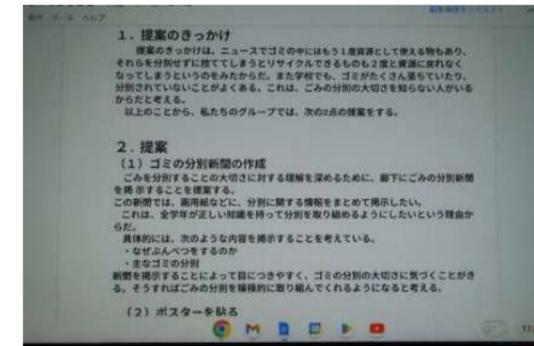
2 展開

めあて 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して、提案文を書こう。

- ① 自分の考えが伝わるとはどういうことか考える。
 - 提案文であることを押さえ、自分たちの提案が相手に納得してもらえようようにする必要があることを確認する。
- ② 書き表した方の工夫について、学習したことを復習する。
 - 具体的に書く。内容のまとまりごとに段落を分けたり、見出しを付けたりする。
 - 箇条書きにする。事実と感想、意見とを区別して、文末を書く。
- ③ 端末を使って、提案文を作成する。
 - グループごとにGoogleClassroomに載せたドキュメントを開き、グループで共有できるように設定する。
 - 共有されたGoogleドキュメントで自分が分担する部分を書き進める。
 - 友達の入力した文章がリアルタイムで共有されるため、筋道の通った文章であるか、書き表し方の工夫がなされているか、確認しながら取り組む。
 - 書いている途中にグループで声をかけ合いながら、アドバイスし合ってよいことを伝える。
- ④ 作成した提案文を大型モニターに映し、他のグループの書き表し方のよさを見つける。
 - 工夫して書いたところを発表する。
 - 端末上で他のグループの提案文を読むことで、自分たちの提案文に生かせることはないか考える。

3 まとめ

- ① めあてに沿って、振り返りを書く。
 - 自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫して提案文を書くことができたか端末上に振り返りを書く。
- ② 次時の活動の見通しをもつ。



← 完成した提案文の一部。友達と推敲しながら進めたため、筋道立った文章になっている。

授業者から (成果・課題・留意点)

- ・ タブレット端末を使うことで、グループで一つのものを作る活動により協働的に取り組むことができるようになった。紙媒体では友達の進み具合や書いている内容が分かりにくく、文章全体の筋道を整えて書くことが難しかったが、共同編集にすることでまとまりのある文章にするための話し合いが活発に行われた。
- ・ タイピングが得意な児童に文章作成を任せようという課題が見られた。役割分担を工夫したり、明確にしたりして、一人一人が文章作成に携われるようにする必要がある。